

茶道部活動報告

普段の活動

ここでは、私達の普段の練習状況を紹介します。活動日は、毎週火曜日と木曜日で、火曜日は先生に稽古を見て頂き、木曜日は、その復習となります。

まず新入生は、帛紗さばきから始めます。その後、足の運び方、割り稽古と進んで行き、点前や半束だけでなく、自分がお茶を飲む、客になるという練習もします。その間、二年生は、一年生を見たり、文化祭へ向けて小間での稽古をして



います。夏休みになると、週に一度稽古し、後半には夏合宿へ行きます。五泊六日位で行い、最後の日には、朝茶会と呼ばれる茶会を開きます。この時までに一年生は、平点前がきちんとできる様に稽古します。

後期に入ると、行事がたくさんあり、とても忙しくなります。まず、十月の文化祭で行われる添釜茶会へ向けて、準備と稽古が始まります。一年生は平点前から、棚の点前へ変わり、二年生は引き続き

小間での稽古を行います。今年、二年生は部員数が多く、思う様に稽古が進まず、人の稽古を見るのも勉強という気持ちで、稽古していました。そして文化祭係を中心に茶券作りなども始められます。次に、十二月に行われる雪待茶会の準備と稽古になります。今年、創立五十周年の合同茶会なので、いつも増した緊張感を持って、稽古、準備に取り組みました。一年生は立札席を持つため、立札の稽古、二年生は、十一月に、風炉から炉の点前へ変わりますので、炉の長板の点前の稽古をします。そしてこの雪待茶会を持って、二年生は引退となります。その後、初釜などの行事もありますが、一年生が中心となって行われます。



各係より

茶道部では、行事などにより部員を係に分け、各係が中心となり活動しています。ここでは部長、副部長からも一言頂きました。

部長

木下 朋美

部長の仕事は預かるに当たって、これまで部を支えて下さった皆様に感謝申し上げます。たいと存じます。仕事の上では、みんなが仲良く楽しく茶道を出来ること、五十周年の節目として今まで受け継いできたものをさらに発展させ、高めていく事を考えて来ましたが、これからもより多くの人に茶道に触れていただけるような部を作って行きたいです。

副部長

池田 千寿子

私共の学年は部員数に恵まれ、各係は仕事に責任を持って茶道部に参加し、皆が協力的な姿勢のため特に係のない私は有難く感じております。また今年、改めて大妻女子大学茶道部の歴史と伝統に触れる事で、これからも絶やす事

無く後輩へ受継いでほしいと改めて実感いたしました。幸運にも五十周年という重大な年に巡り合った事を心より慶ばしく思います。

副部長

三田村 菜美子

副部長の仕事内容は、部長と共に協力し合って部を繁栄させていく事だと思っております。そして、この伝統ある茶道部を存続させていく為にはあらゆる努力と常に責任を持った行動をする事だと思っております。さらに、年間行事を通して各係との連携も大事な仕事の一つでもあります。このように副部長の仕事は、複数あり、大変な事かもしれませんが、やりがいのある仕事内容でもあります。私自身も短い間ではありましたが、副部長の仕事をしてきていろんな経験をし、私自身成長できたのではないかと思います。最後になりましたが、今まで協力して下さいました皆様本当にありがとうございます。感謝の気持ちをお礼の言葉とさせていただきます。

《会計》

今年は五十周年を迎え、お金の出入りも多く、大変ではありましたが、副部長の池田さんをはじめ、他の部員の協力を得て順調に仕事を進めることができました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。会計係という重要な仕事につき、責任を感じながらも充実した部活動ライフを送ることができた事は、大変光栄に思います。

《渉外係》

渉外の仕事は、他校との交流を深めるためにお茶会や行事等に積極的に参加する事と、もう一つ主な仕事としてクリスマス会、新入生歓迎会、送別会等の企画があります。

会場になるお店と交渉するために事前に何度も足を運んだり、予算の事を考えたりとなかなか大変ですが、みんなが喜んでくれるのを見るとやがいのある仕事だと思えます。

《庶務係》

庶務は、OGの方や他大学の茶道部の方に四季のごあいさつ状や茶会のご招待状、お

札状などを書く仕事をしており、枚数も大変多いです。年に何度も書くので大変忙しいです。特にOGの方にはすべて手書きで書くという伝統がありますので、OGの方には一切印刷物は使っておりません。

大変な仕事ではありませんが、人と人との親睦を深める仕事ですので、やりがいがある仕事だと思えます。

《道具係》

道具係の仕事は、茶会で使うお道具を決めたり、お菓子やお花の注文、お茶や足りない物の購入、お道具の消毒、管理などです。また、茶会当日には、お湯を沸かすといった準備の他に、水屋の仕事全般に気を配り、茶会がスムーズに進行できるように裏方で働くことが道具係の仕事です。お道具に関することは全て仕事に含まれるので大変ですが、やりがいのある、楽しい仕事です。

《合宿係》

今年の合宿は河口湖のラベンドーフアームにて四泊五日で行いました。休憩のお茶とお菓子を楽しみに毎日熱心に

練習に取り組みました。また最終日にはパーベキューや花火をして楽しく過ごしました。参加した部員には充実感が見られ、この合宿が意義あるものであったとうれしく思います。これを支えにより成長していって欲しいと思います。

《文化祭係》

普段は茶道に親しみのない方々にも、茶会の雰囲気味わって頂ける数少ない機会が文化祭です。そのような行事を迎えるにあたり、どのお客様にも楽しんで頂けるよう、準備を進めてきました。整理券作りなど、細かい仕事が多いのですが、他の部員の協力のもと行われた文化祭には、当日も大変多くの方がお越し下さり、私共にとつて忘れられない思い出の一つとなりました。

《秋季係》

秋季係の仕事は、十二月に靖国神社で催される『雪待茶会』の準備、手配を中心に行います。一月には靖国神社に再来年の茶会を行うための茶室を予約しに行きます。又、十一月頃には、お茶券の作成など諸々の準備に入ります。今年

は茶道部五十周年ということとで例年より華やかなものにし、成功させたいと願っております。

『雪待茶会』という呼び名は、昭和五十一年度に始まったお客様には大変好評を頂き今日まで二十三年間続いています。

《新聞係》

新聞係というのは、毎年ある係ではなく、五年毎に作られる係です。そのため私達が一年の時にはこの係はなく、先輩方の仕事を拝見できなかったもので、以前に発行された新聞を参考に進めてきました。何もわからず、大変でしたが、いろいろ勉強になりました。今年、茶道部創立五十周年という記念の年の新聞作りができた事大変うれしく思っています。

年間行事

一月 初釜茶会

一年生が引きついで初めてのお茶会です。

二・四年生は招かれ、暖かく見守ります。

二月 送別会

この会で二・四年生は齋藤先生よりおゆるしとお免状を頂きます。

四・五月 新入生勧誘茶会

新入生に、私達の茶道部をよく知ってもらい、興味を持ってもらえるよう企画します。

九月 夏合宿

本年は、私達は四泊五日で河口湖へ行き、宿の都合上、最終日の朝茶会は学校で行いました。厳しくつらい五日間ではありますが、とてもよい思い出になります。

十月 大妻祭添茶会

他大学の方や一般の方をお招きする茶会で、一年生は初めてのことで緊張のなか立派にこなします。二年生は練習の成果を発揮します。

十二月 雪待茶会

靖国神社で行う茶会で、今までとは違った雰囲気の中、より緊張します。二・四年生はこれにて引退となります。

クリスマス会

一年生の企画によるもので、この日ばかりは皆はしゃいで、楽しい催しです。



夏合宿を終えて

茶道部恒例の夏合宿が今年も行われました。残念ながら、四十数年続いていた北鎌倉、円覚寺での合宿は終了し、五年ほど前から合宿所を変更して行われる様になりました。今年も、九月七日から九月十一日までの五日間河口湖にあるラベンダーファームという宿にお世話になりました。合宿は、茶道の上達はもちろん、部員同士の親睦を深めるのにも大切な場となっています。



一日の主な日程は、朝起床し、まず和室の掃除をします。それから朝食の用意を手伝い、頂いて稽古を始めます。一班と二班に分かれ、それぞれ十二日に行われる朝茶会に向け



て、稽古にはげみます。この茶会は今年卒業された先輩方をお招きし、一年生が主役となつて日頃の稽古の成果を披露する場です。お昼をはさみ、午前と午後の練習が終わると夕食、お風呂となり、夜の稽古が始まります。夜の稽古は補習が主で、みんな自主的に和室へ集まります。そして、そろそろみんなが疲れてくる最終日、二年生は一年生に内緒で計画を立て、夕食にパーベキュー、その後花火大会を行いました。それまで親しくなかつた者同志、きびしい練習で距離のあつた二年生と一年生、それぞれが心から笑い合ひ、共同生活の中から、他人を



思いやる気持ちや、自分から何かを始める自主性など得た物は多いと思います。そして十二日の朝茶会当日、初めての茶会という事で、緊張の連続でしたが、一年生は立派に点前、半束をつとめ、無事茶会を終える事ができました。



大妻庵のモデルとなった又隠

又隠は、京都裏千家の茶室で、宗旦が造立した隠居所である。宗旦は、今日庵を設けた後も家の諸事に携わっていたが、再び隠居するという意味から「又隠」と命名された席を設けた。

かや葺入母屋造りの外観をもつ本席は、四畳半本勝手道の庫付で、その特徴は、南東の明りを採って北向に点前をする様式で、本義に則つた茶室としては、模範的なものであり、突上げ窓なども諸方の範となつている。また点前座先の筆さき柱や、水屋にしつけられてある炮烙棚も宗旦の創意にかかり、これもまた各所に用いられる炮烙棚の基本型をなすものである。

参考 裏千家入門必携



〈茶道部の沿革〉

- 1949年 柳澤宗淵先生により、茶道部創立される。
- 1966年 茶室「大妻庵」が誕生
- 1979年 柳澤先生が引退され、齋藤宗雅先生が後を受け継がれる。
- 1984年 創立35周年記念茶会を催す。
- 1989年 創立40周年記念、記念新聞「茶道部だより」を創刊。
- 1990年 校舎改築によりC棟地下1階に大妻庵が復元、完成。
- 1994年 創立45周年を迎え、「茶道部だより」を創刊。
- 1999年 創立50周年を迎え、現在に至る。

文化祭 添釜茶会

本年の文化祭の添釜茶会は十月二十三日、二十四日に行いました。一年生は広間で薄茶一席、二・四年生は「大妻庵」という小間で薄茶一席のお茶会を設けました。

お茶会を催すための準備は、すべて自分達で進めていかなければなりません。夏合宿のときに整理券の案を出すのは一年生の役目で、初めは手まどっていたようですが、とてもきれいな、掛物の形のお

茶券と、もみじとどんぐりのついた秋らしいお茶券が出来ました。

そして、一年生にとって、一般のお客様の前でお点前をするのは初めてのことで、大変不安で緊張するものですが、持ち前の明るさと日頃の熱心な練習により、丁寧なお点前と半束をやり遂げました。

二・四年生は慣れない着物のため、動きづらく、練習のときとは異なるので戸惑いまし



平成11年度 大妻祭 添釜茶会 平成11年10月24日

3列目左から：山本友美・渡辺一香・荒澤尚子・横井美和・嶋本佐智子・大野かほり・大野木修子・伊藤由佳子・江藤友紀・天野有希子・石川妙子・荒船幸恵・金子久美子・片山由香・布施木洋子・朽木仁美
2列目左から：吉田夢子・山田友紀子・荒木雅子・森田景子・谷口香織・福田純子・渡辺 泉・川本詠子 1列目左から：瀧浪正子・三田村菜美子・木下朋美・一見静代先生・石井とめ子先生・池田千寿子・橋本理枝・山本千鶴



この添釜茶会の反省点を、雪待茶会には活かし、雪待茶会にはもっとお客様にお慶び頂けるように頑張ります。



たが、今までの二年間の練習の成果によりうまく切り抜けました。そして、これまでの先輩方のご苦勞や、茶会を催すことの大変さを改めて実感しました。

先輩からのひとこと

▼茶道部五十周年おめでとうございます。卒業後も度々お茶会に伺わせてもらっています。茶会に何わせてもらっているお道具に再会できてうれしく思います。私達が在学时、ちょうど四十周年でしたが、それからもう十年。これからも変わらなく茶道部の伝統を重ねられることと願っています。(Y)

▼今年で創立五十周年と聞き、驚いております。鎌倉の円覚寺での合宿がなくなってしまうことは残念ですが、少しずつ変化しながらもこの素晴らしい伝統をこの先も永遠に守り続けていって下さい。(K)

▼私達の代の人数が入部した時より、後期が始まる前に激減してしまっただけ、厳しい円覚寺での夏合宿があったためでした。卒業して八年経た現在でも、その合宿での経験はとても貴重なものとなり、茶道部みんなの強い絆となりました。こうして卒業後に今でもきちんと受け継がれた茶道部の流れを見る事ができるのは、本当に幸せな事です。何年たっても変わらないお点前

さん、半東さんの仕方に、ホッとさせられる茶道部であって欲しいものです。(S)

▼五十周年という伝統的な部活なので、これからも頑張ってお守って下さい。厳しいと思うことが多くあると思いますが、部活以外でも通じることだと思えます。五十年という伝統は大変なことだと思いますが、気を引きしめて雪待茶会を務めて下さい。(O)

▼五十年というのはとても長い期間だと思おうので、そのほんの一部でも担うことができたいのは、とても誇れることだと思います。これからも茶道部が、ずっと続いていってほしいと思います。(R)

編集後記

茶道部創立五十周年という記念すべき年に発行する新聞作りに携わる事ができ、五十年という重みを改めて、感じる事ができました。最後になりましたが、この新聞を発行するに当たって、ご指導、ご協力頂きました先生及び皆様に感謝申し上げます。